

第3回総合計画策定審議会 議事録

日 時：平成26年3月14日

場 所：中央公民館第1会議室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、重松安晴委員、田頭孝志委員、武智英一委員、武智英明委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、向井桂委員、山崎由紀子委員
事務局（鶴岡・安田）

1 開会

2 議事

(1) 市長公約に係る取組みについて

事務局から説明。

(会長)

この件について皆さんからご意見をいただきたい。

(委員)

ウェルピア伊予の将来構想の企画と立案を見たが、あの施設を見て、文化面か保健面のどちらのメリットが高いかと言えば保健面のほうが高い。だから健康な人を作る施設、健康志向でやっていただきたい。原点に返れという考え方。宿泊施設も運動施設もある。あれだけの施設を整えている所は松山近辺には無い。マンダリンパイレーツのホームにしてもいいし、大学の合宿をしたり、やはり第三者が運営する。市の運営ではあれだけのノウハウを持つのは大変。東京あたりの専門家、幅広い人を、全国から呼び寄せる。そういう考え方が伊予市には弱い。また、県の施設をもっと利用するようにPRしたい。松前、砥部、重信には松山に人を取られるという緊張感がある。伊予市にそういう緊張感がもう少しあったらいい。以前、伊予市のお金を使わずに県、国のお金を使って伊予市へ施設を持って来て、伊予市の人を使うし他の人も使うというような市長がやり手の市長だと言ったことがある。そういう面が弱いと思う。もう少し観光面を考えたらいいと思った。

(委員)

ウェルピア伊予は有効に活用しなければならない。築30年が近い。維持管理を含め補強もしなければならないが、膨大な費用がいるであろう。若い人からお年寄りまで集える施設を願う。提案と現実をもっと調査して、今、市がどのような方向性を持っているかということをお我々にも教えていただきたい。

(委員)

ウェルピアの件ですが、市長の言う未病の施設を建てるというのは、あそこに何かを持っていかないと、調整区域を解くにしても、建物を何か貼り付けな
いといけないので、未病センターを作るという話が出ている。また、東京の業
者、ファンスペースがやっているが、ウェルピアは3社の競争になった。ファン
スペースは利益の3割出す。中で伊予市に対して一番良かったのは、何も無
くてもまず1,000万円払う。条件が良かったけれど、トータルで良かれとい
うのでファンスペースが取った。この場合は利益が出なければ伊予市には入ら
ない。補填があれば伊予市が出す。施設を直していくのは全部伊予市。商売とし
てはおかしな話です。本来、委託するなら全部で委託で利益出さないといけ
ないが、お金は出すが、貰うのはあまり貰わないというのが今のやり方。ウェ
ルピアをやっていくなら、そういう条件も見なければならぬ。契約は10年。
お金をかけて宿泊施設やって、有り難いことだが、それだけの費用を伊予市が
できるかです。予算と利益を考えて方向性を何通りか出すべき。それと、市長
の考えとしては、どうしてもあそこに何かを貼り付けないと、今の伊予市がこ
れから何かをしようとした時に障害になるので、未病センターなどといい加減
なことと思われるかもしれないが、市長としては本当に考えて、方法はそれし
かなかろうと案として出た。私は、本当は総合福祉センターにアスレチックク
ラブみたいなのを作って欲しかった。高齢者の健康増進には一番です。伊予市
民は65歳以上はただで、インストラクターを付けて。今の伊予市の国保の負
担金が大体15億から16億くらい。それだけで3割から4割減る。5億か6億
のお金を生む。以前、これは儲けると市役所にも言ったが、行政は儲けてはい
けないと言う。儲けると言うのは、経費を節減すること。経費節減は100%の
純利益。一番簡単な儲け方です。アスレチッククラブを作ることでお金はかか
ったけれど、その分の税金が出ていなくなるということも考えてくれと言っ
たけれど、全部だめだった。そういう形を選んでいただきたい。

(委員)

ウェルピアの事。平成21年に市庁舎等の建設の検討委員会において、ウェ
ルピアに図書館と文化ホールを建てたらどうかという案を出していたが、前市
長の考え方としては、将来、ウェルピアは売りたい。文化ホールか何か建てた
ら全部を見なければならぬが、伊予市は見るができない。調整区域を解
いて、住宅の建売として不動産業者に売ったほうがいいと。かつて8億円で買
ったものを30億で売れば市の財政は良くなるけれど、松山市を除いた中予地
域の中で、自治体が広範囲の施設を持っているところは無い。だから、伊予市
として有効利用することも大事なことはないかと思う。夕張市みたいになっ
てはいけないけれど、どうやるかということをもっと市民が考えるべき。文
化ホールや図書館を外されたからといって、やけになることもない。使い道は

もっと深く掘り下げて考えていくべきである。埋立地の問題だが、簡単に県が市街化区域に判を押す訳が無いと思う。それほど市と県は、あまり良くなかった。松前を通り越して市街化区域へ簡単に愛媛県が押さない。そういうところはどうか。前県議もがんばったが、どういうパイプを作って、伊予市の有益な方法をとっていか。売ったら無くなる。そういう検討もお願いしたい。(委員)

ここは総合計画の審議会場で、一番大事なことは伊予市全体をこれからどう持って行くかということ。1つの問題を見るだけの場合と、全体の中での1つと見る場合と、話が180度変わることもある。人口減少、マイナス成長時代に見合った総合計画を作っていかななくてはいけない。伊予市全体として、そういう町を目指す訳ではないが、そこに行かざるを得ない。それを予測した総合計画を作っていかななくてはいけない。今、東北で人口が減少して、高齢化も進んでいる。言わば日本の50年先が先に東北に現れたということ。2050年には人口が今1億3000万弱が8000万になる。3割減る。それを予測すると、固まって住むしか生き残る道は無いと思っている方が沢山いる。東北の町の復興もスプロールするのではなく、中心地に人を集めれば人口が3割減ってもなんとかもつという発想で、高台移転とか町の復興しているところが沢山ある。ウェルピアは今まであった財産なので、活用するということが大事だが、町の集約化に反する方向へ持って行っては元も子もなくなる。前市長もそういう考えを受け入れて、文化ホールや図書館は中心部に持って来たと考えている。例えば、市街化調整区域を外して市街化区域にして住宅がまた増えるような状況を作るような機能では、逆にばらけてしまって、今度伊予市全体が沈んでしまう。作るのであれば、郊外でないと成り立たないスポーツ施設とか、それから未病の施設はすごくいいと思う。将来、市も市民も、介護や健康保険、病院代を節約する一番大きなファクターになる。こういう施設があれば、そこに人口を吸い寄せるようなことは、あまり考えられない。全体では中心に集まる。郡中だけでなく色々な所に星座のように沢山の部落の中心があった訳だから、そこが滅びないようにすることが第1目標で、それに反しない何かの機能をそこに考えるというのが一番大事なこと。もう1つ、コンクリートの建築だと50年くらいしかもたないと言われている。東京の表参道にあった同潤会という大正時代にできた集合住宅があるが、築70年で文化財として残したかったが、壊して建て替えられた。それが70年。ウェルピアは築35年。耐震補強したとしても、寿命はそんなに長くないだろう。新耐震基準、耐震性有り、耐震性無しの話ではなく、既設の建物は耐震基準が低くても合法ですという緩和項目がある。しかし、震度6くらいが来たら、合法であっても危ない。コンクリートは寿命に限りがあるということ。3点目は、今の収支がどうなっているのかです。

どの機能がいいというより、マクロに今後やって行けるかどうかを見たほうがいい。もう1つ。非常に無責任な案だが、温泉は出ないのか。

(会長)

掘ったら出るでしょう。

(委員)

温泉を掘った後、民間に渡せば、なんとか事業としてやっていけると思う。

(委員)

ウエルピアは、B1 グルメでも1万以上の集客があった。文化祭、健康まつりもしており認知度は高い。ウエルピアで一番いいのは木です。35年経っており、次第に森っぽくなっている。箱物は劣化するが、木が増えていい感じになるから、野外イベントやコンサートをしたらいいと思う。箱物が劣化していても、若い人たちが古いところを直すこともある。徳島の古い民家などに東京のIT企業が入って、その人がご飯を食べさせている所もある。古いから使い物にならないということは無い。知恵と人脈で、そういうのも有る。

(委員)

大賛成です。一番大事なのは、施設や色々な条件が不利であっても、仕掛け人がどうするかです。今回の計画の中でも、片隅に置きながら対応していかないといけない。特に伊予市の場合は、近隣市町村と比べるとマイナス要因が非常に多かったが、それは過去の事で、今同じベースでどうするかを考えると、基本計画作っても、その中に居るのは人ですから、やはり人がどう動くか、どのように若い人を動かしていくかということが最終的には必要だと思う。

(委員)

その通りだと思う。温泉については、かつて三秋で温泉を掘ってもいけないと言った。伊予市は水の無い所だから、大量には出ないと。なぜそういう事を言ったかという、大平で失敗している。大平で掘って、出たけれど量が少ないというので、少し下でまた掘った。そこが出始めると初め掘った所が全然出なくなった。中央構造線で冷泉が湧いていた所を掘ってもいけないのだから、三秋を掘っても同じだと。今、方々に温泉ができており、温泉ができたとしても事業としてはやっていけない。ただ、先程東京と言ったのは、伊予市でやっておる事業を見て、例えば森の体育館にしても声が割れるなど音響設備が非常に悪い。値段が安いということだけではなく、広い視野で、機能的な面も十分考えて建ててもらわないと後々困る。松山の福祉センター、美術館、図書館にしても、どこに行っても土足です。坊ちゃん球場でもスタンドの下に柔道場や剣道場があるが、消音ボードで囲っており声が割れたりしない。色々な所の施設を見て、広い視野でウエルピアを考えていったらいいと思う。

(会長)

経験豊富な70歳以上のシニア世代の知恵を活かすまちづくりの推進、子育て支援、教育についての意見をいただきたい。

(委員)

今後10年で愛媛県の人口が140万から130万人、10万人減る。伊予市の人口も3000人減る。人口減少を最小限に食い止めようと思ったら、子育て支援を最上位に位置する政策にならざるを得ない。人口減少を前提とした総合計画にすべき。前の総合計画のように、とりあえず現状維持を目標にするといった安易な目標設定はいけない。3000人減るという事実は見つめながら、子育て支援を考えなければいけない。一方、キーワード的に言えば持続可能性。ずっと続けられる政策かどうか見極めながらやらないといけない。一例を挙げると、デマンドタクシーは約2600万かけて収入が600万。赤字が2000万。だったらタクシー券配るほうが便利な話になる。子育て支援に関しては、若い夫婦の取り合いだということ認識すべき。伊予市、松前、砥部、東温、松山の中で、若い夫婦が家を建てようと思うときに、松前は水がある、エミフルがあるのでプラス2の加点事由がある。伊予市に、それに類する加点事由を作らないといけない。ウェルピアは活用のしかた如何で加点事由になる。もう1つ、全国一の子育て支援といったものを作ることが重要。伊予市は子ども育てるには最適な町だと言ってもらえるような、具体的なものを積み上げていくようなことを、是非とも総合計画に盛り込んでいただきたい。伊予市は数字的には待機児童がないことになっているが実質はそうではない。毎年250人産まれてくる子どもに手一杯な状態で、300人、350人産んでくださいという対応はできていない。そこで、他の自治体との若い夫婦の取り合いで、伊予市に来てもらうことが大事だということで、子育て支援。それから人口減少を前提とした持続可能な政策をやらなければいけないということ。もう1つ。伊予市の今までの行政の各部署部署のあり方を見ると、守りの行政だということが顕著。職員も減り、部署も統合されて、行政職員の方は大変な思いをしていると思うが、その中でも攻めの行政をしないと、先細りになるということを感じておくべき。足らざる所は市民が協力する、痛みを分かち合うということも含めて考えて行くべきだと思う。それと中心市街地の話。市長公約の中にもある小さな店の復活というもの。周辺地域も暮らしやすさが必要。半径300mの方がコミュニティを維持できるようなものにするためには、お店の中にコミュニティスペースがある形で小さな店を復活する。活用場所としては、新たに建てるより各地区にある集会所を改修する。200品目くらい、あるいはその土地で採れた野菜を受け入れるスペースを持ち、その地区の人たちが買うことができるような場所で、そこで寛げるような形。集会所ならばそういう機能が十分備わっている。

(会長)

矢祭町が250万円を子ども1人に対して補助する、他の町では100万円。そういう特異なまちづくりをしている所もある。その辺も考えて提案をいただきたい。地産地消をベースとした食育活動についても意見をいただきたい。

(委員)

区長会の研修でいいと思ったのが和歌山。和歌山も愛媛と同じ柑橘の盛んな所だが、年中柑橘があるという市場がある。夏はハウスマカンがある。キンカンまで入れれば40種類くらいあると思う。愛媛で、ここから南は特にミカンに力を入れている所です。柑橘と柑橘の間が大きすぎるということもあるが、地産地消の1つの取組みとして、伊予市のあるところへ行けば年中ミカンがありますというショップを作っていく、そのようなものも考えていったらいいと思う。

(会長)

食育活動だが、ウェルピアも、B1 グルメみたいなものを、地域から出てきていただいて、年に1度くらいはそういう大会も面白いと思う。

(委員)

子育てと老人を別々ではなく一緒に考えるほうがいい。老人の健康施設を作るのであれば、子どもの施設もその横に作る。老人の認知症予防で、その職員の保育園を隣接している所がある。老人も子どももお互い利益を得ている感じがある。一緒に考えて建てれば、子育てしているお母さんたちも来やすいし、老人も行ってみようかと思う。そういう相乗効果がある。別々に考えるとぼつんぼつんとしていて、あまり魅力が無くなるような気がする。そういう考え方で話を進めていただきたい。ウェルピアの活用も、色々な世代が、家族ぐるみで一緒の日に一緒に集まれるようなことを考えたほうが楽しい気がする。

(委員)

もものさとが老人施設の横に保育所を作った。結構先端的なこともやっている。結果も出している。今も、もものさとの老人たちと上野保育園の園児たちとの交流がある。知らない人もいるが、四国でも一番早かったくらいだと思う。

(委員)

中山にも紅梅園は、高校生も幼稚園生も行くという形で交流がある。そういう取組みを進めていったほうが良い。

(委員)

地産地消についてです。ヨーロッパやアラブでは町の中心に市場があって、土・日曜日に、農家の人は自分たちが作った野菜をその場へ持って行って売っている。今、日本ではスーパーなどの企業が、1つの場所で契約農家とやっている。そうではなく、外の公的な広場で自由に、主催者が居ない状態で集まって本当の市場が開かれるようなのを作ったらどうか。日本にはほとんど無い。そういうやり方すると町の賑わいができるのではないか。もう1つは別の視点

で。有機無農薬はヨーロッパでは盛んだが、日本は立ち遅れていて、大学でも研究されていない。ヨーロッパの町の広場で、農家が持って行くのはだいたい無農薬です。オーガニックです。オーガニックというと有機で、無農薬で、無化学肥料の3点セットだが、日本は無農薬だけ化学肥料を使っているとか、趣旨が分からなくなっている。伊予市は、福岡さんの地元だから、まず自然農を広めるとか、本当の無農薬有機を広めるとか、零細農家に限るが、そういうのを1つ目標に置いてもいい。行政は農協とくっついているから、そんなことはやらないが、やはり日本における福岡さんという自然農の聖地でもあるから何かして欲しい。自然農は世界で日本が一番進んでいるが、無農薬はかなり遅れている。本当の健康、子育て、環境、食ということになると、無農薬であることと、化学物質の無添加である、その2点。もう少し何かできないか。

(委員)

私も百姓していますので、今言われることは良く分かるが、百姓の身にもなってもらいたいと思う。お金を取るとなると、売り手があって買い手があります。ぼかしも勉強させてもらった。ニンジンやホウレンソウは、すごく甘くて美味しい。確かに皆さんに本当の味を知ってもらいたいと思うけれど、それでやっていくとなるとなかなか難しい。虫は春になったら何百匹と捕らないといけなくなる。肥料も鶏糞だけではいけない。1反や2反ならできますが、その辺のところも難しい。私も産直に出していますので、自分のところの畑で作ったものは、無農薬という言葉は使ってはいけないので、ぼかしでとか、ぼかし畑で使っていますと言っている。ぼかしも伊予市の女性会議で勉強させてもらって、普及所の人から指導を受けて自分で作っている。

(会長)

先程言われたのは純然たるファーマーズマーケットという捉え方で、公共施設を利用して、自由に売ってください、自由に買ってくださいという所が欲しいということですか。

(委員)

そうです。企業とか、今の町家も第三者委託になっているのですか。だから、そうではなく本当に経費がかからないようなやり方で、直結で、誰でも参加できるような。本当は魚もそれでやったら面白いと思う。

(委員)

南伊予が土・日曜日、輝市をやっている。行ったことはありますか。

(委員)

すみません。知りません。

(委員)

輝市が今やっている。そういうことに関し卓越した人が、輝市に行って、こ

ういうのもあると教えていただいたら、特にあなたのような知識を持たれた方にしていただいたら、もっといい意味で広がって行くと思う。あそこは農協の倉庫だったと思う。伊予市でも、そういうものが立ち上って何十年にもなる。そういうものもあるので、そういうお話もしていただけたら。

(委員)

輝市より前に、私たちも近所でやっていたけれど、その頃はハウスマカンなどがあったから売り上げがあったが、もう無くなって、輝市もでき、方々に産直ができたので止めてしまった。

(委員)

無農薬でやろうと思ったら、個人では無理。なぜかと言うと、隣は消毒する、こちらは無農薬。やるのなら、この地域をとってやらなければ無理。農協も、指導力が無くなってしまった。誰かが指導して、この地域は絶対無農薬だというようにやらなければ、いいことだけれど、個人では無理。

(委員)

地域で取り組まなければいけない。福岡さんがそれをやった。

(委員)

そのことは十分知っている。あれは、制度そのものが少しおかしいのではないかと思う。無農薬を厳しくすることによって、むしろ減農薬を守っているように見える。伊予市の基準を作って、隣は知らないが、うちはとにかくやっているぞというくらいの、もう少し緩い無農薬を広めないといけない。

(委員)

誰かがリーダーシップをとってやっていかなければ、この問題は解決しないと思う。本来は、市なら市がやると、どっかが決めるとか、リーダーシップをとらなければ無理です。今の農協では多分できない。

(委員)

無農薬栽培は、農業技術をある程度習得した農家の夢です。今スーパーフジが北条の風早地区を特定して、タマネギと一部の野菜を中心にして取り組んでいる。県が進めている減肥減農薬の有機農業栽培の究極の目的は100%無農薬。無農薬でやる場合、有機農業を進めるのに一番大事な基本は土地、土壌です。土壌を有機ができるようにする。土壌で何が一番大事かと言うと微生物菌です。有効微生物菌を増やした土壌を作ることが、非常に今の農家が置かれている条件からは難しい。農業で生計を立てなければいけない。フジが、松山市から出る生ゴミで、できるだけCO2を削減しようということで、13年前から取り組んでいる。風早地区で、フジが主導権を持って堆肥を作っている。そこで作った堆肥を、地元の上難波の農家に無料であげて、できた野菜をフジが販売する。全国で地産地消、道の駅等あるが最終は出口。全て経済。産業もそうです。結局

売ることができないと収益が上がらない。農業で一番課題になるのが、出口です。売り先が無い。JAは、販売はあっても中間のバイヤーと一緒に関係無い。一番大事なのは、出口をしっかりと捉まえて何を作るか。今、伊予市で農業分野の議論をお願いしたいと思っている。出口から、風下からものを考えて風上をきちんと計画を立てる。農業なら作る前に売り先をある程度設定して物を作る。目的ができれば、そこへ至る技術。今、色んな技術がある。そこを、もう一度伊予市で農業振興する意味で整理していかないといけない。それをやるためにはJAもさることながら一番大事なのは行政です。伊予市が、どう農業の絵を描いて、5年計画10年計画でどう生産を高めていくか。地域の特徴を踏まえて、農家とマンツーマンで絵を描いて、お互いが納得して実践していく。それを手助けする色々な媒体を持って行かなければいけない。その原点は土壌です。それができれば有機農業は自然とできる。福岡先生の原理はそこです。しかし、それを農家として実践するのは不可能な状況です。一番言いたいのは、出口をしっかりと作る。伊予市の場合、町の中で売る場合にも、核となる組織を作り上げて、誰が人を動かすかということ、トータルで考えていかないといけない。私、一番やりたいのは実は有機農業です。今、国、県は減肥減農薬を推進しているから、それをやりながら特定地域を限定して無農薬栽培をやる。今、愛媛県で実証しているのは上難波。松山市がリーダーをしながら、フジが1億2億というお金を出して施設を作り、そこで松山市の廃棄物を堆肥化して、農家に出して、地元が有効的に土を作って、スーパーフジへ物を売っているというのがある。そういう事例が県内にある。それと同じようにはいかないが、やはり出口を先に、風下をしっかりと見据えなければいけない。お金を儲ければ農家の後継者も自然とできる。農業でご飯が食べられないから、伊予市も双海も中山も後継ぎが残らない。愛媛は柑橘県ですから、柑橘であればまだご飯が食べられる。後継者がおりますから。愛媛県としても、試験研究として、そこにシフトしながら吉田に柑橘研究所を設立したという背景がある。伊予市は松山市の消費地を控えており、近郊野菜を作るには持って来いです。伊予市は、レタス、エダマメがトップクラス。私なりに思いを皆さんにお話しないとけないと思う。有機農業は大事な事。新たな方向で、他所の地域に無いものを打ち出すと言ったら、やはり有機農業です。是非やって欲しい。それも廃棄物から始めて。残渣を燃やすのではなく有効利用を。松山市は、間伐で出る街路樹も全部出てくる。フジと提携して街路樹を粉末にして堆肥化している。今、それをやろうとしているのが松前町です。松前町はそういう点では行政が先取りしており、一生懸命やっていると感心している。そういう意味で企業なり、そういうのをうまく利用していけばいい。フジも今までは世界のどこからでも食品を集めていたが、やはりフジも自分の産地が欲しい。今までは市場制度があり、

全国から荷物が集まって来ていたが、それが今できない。産地から直接産物が入って来るので、市場そのものが経済的に成り立たなくなっていて、独自の産地が欲しい。それで私が仕掛けたのは、県の補助金をもらいながら、北条をスーパーフジの野菜にするということ。その成果が出たのが、昨年10月、内子にスーパーフジの農業法人をパイロット事業で造成した後へ野菜の団地を作って立ち上げた。そういうところまでお手伝いをさせていただいた。

(委員)

先日ウェルピアで、伊予市で健やかに老いるまちづくりという講演が行われた。講師は三重大の津田先生。こういう伊予市になったらいい、ウェルピアが家庭医療の施設になったらいいと思った。あのようなものを中心に地域が健康づくりの場であったり、農園を作って野菜を持って来て販売するとか、色んな構想の入ったチラシの図面を見て惚れ込んだ。宿泊施設があったり、温泉もあったり、周辺にすごくいい。こういうのが沢山有れば、年を取っても元気生き生きの人が伊予市には増えると思ひ、この講演には感動した。

(会長)

歩く人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくりを推進しますということ、安心というところ。この件について意見をいただきたい。

(委員)

2番目の歩車分離を徹底しないといけない。市役所前の交差点はもう変わった。JRの伊予市駅前もなった。これはもう実行されている。

(委員)

私、中学生に聞いて、どうしてあんな所、信号が変わったのかと言ってしまった。皆さんご存知だったか。委員でも、あの信号が変わったのを知らない。市からそういう話は1つも無い。信号が変わるのなら市のほうに。

(委員)

日本で歩車分離といえば信号機のことではない。歩車分離は信号の話ではない。道のシステムの話で、一本の道だけ歩車分離してもあまり意味が無い。フライブルクがうまくやっていて、松山はフライブルクの政策のごく一部を、1つの道路とか1つの団地だけで真似をした。それでは本来の安全な道路にならない。もう少し面的に作らないと歩車分離は機能しない。

(委員)

灘町・湊町は100年経っており、道も狭い。町並み保存も大事だが、伊予市発展のためには、市が、何を切り捨て何を作っていくかを政策審議会で話していかないといけない。商売している人が切実に感じていることを、こういう場所で意見を言っていただき、こんな意見があるのかと思えば、また話ができる。本当に伊予市をそういうふうにしていくのであれば、それくらい考えなければ

いけない。今の道をどうこう言っても、費用対効果を考えれば、そんな金をかけることはできない。こういうビジョンもあるというのを是非欲しい。

(委員)

昔、岡本市長の時代に、湊町に空港アクセス道路が通るという話があった。私は湊町を通したらいいと言った。市として、またそういう道路を県や国へ要望していったほうがいいのではないか。空港アクセス道路は一度進んだ。私たちは、港のほうへ商店街を作ろうと言った。オープンカフェやフランス料理店などを出す。今の湊町を整理するのは絶対不可能です。一番いいのは、道路を湊町に通してもらって、買い上げてもらう。岡本市長がカラー舗装をしたいと言うので、市長、これは何の足しにもならない、中途半端は駄目だと言った覚えがある。本当に商店街を直そうと思ったら中途半端では無理です。中途半端な事やったのでは、町の活性化というのは、町家だけでも不可能です。大きな転機として何とかならないか。空港アクセス道路があれば企業誘致もできると、もう1回、市からお願いしていくのが町の活性化には大きいと思う。

(委員)

私が居る時には、まだ消えていないとは聞きました。一応まだ残っていると聞いておりますが、調べてみてください。

(委員)

前回、自転車道について言ったが、先日、歩道の関係の会に行った。中学生も自転車で加害者にも被害者にもなっている。そこで問題になったのが、どういうところを自転車が走れるのか、歩道でもかまわないのかどうか分かりにくいということ。知事も愛媛県を挙げて国際的なことまで考えているのなら、愛媛に来たら自転車で四国1周できるというロードにしてもらいたい。伊予市を走ってサイクリングができるというような構想を早い段階で実行願いたい。子どもたちの事故があつてからでは遅い。自転車が安全に走れる、通学できるような歩道、自転車道を、早めに作ってもらいたい。

(委員)

これからの国の財政、地方の財政を考えたら、補修に手一杯で、もちろんあるべき道路は作るべきだが、新たな道路は慎重に考えなければならない。橋の建て替えができるのか。橋の3分の1くらいは落としてしまったほうがいいのではないかという時代になりつつある。歩者分離の話が出たが、灘町の道路を拡幅するという話はもう夢物語であつて、逆に道路を狭め車を通りにくくして歩行者の占有面を多くするという方向でやらなければならない。そういうことを含めて、今考えていけないといけない。自転車道というのは有り得る話です。大きな道路ができたが人はいなくなったという、人口減少が最大の課題になっており、南予は今30万人を割り込んで、いずれ十数万人しか住まないような

エリアになってくる。宇和島や八幡浜は悲惨な減り方をする恐れがある。しかも今回の地震予測で、宇和島と八幡浜は町が全部浸るくらいの話。津波の問題も含めて、町の有りようというのは、南予に関しては特に考えなければいけない時代に入ってきている。伊予市がたまたま愛媛4区になったのは逆に有り難い話で、南予の中核都市に成り得る。南予の中核都市として伊予市を考えた時に、ウェルピアに家庭医を中心としたセンターを作って、総合的に医療を全部診る。この先生が全部あなたのことを見るという仕組みに変えていかないと、医療制度も、地域ももたないのではないか。南予は、医療崩壊を起こしつつあり、万全な医療が受けられないと分かったら、皆が逃げ出してしまう。南予に県が大きな病院を作るべきだったが、リストラの発想でやったために、南予の方々は医療に関する不安から地域を脱出しようとする過程にあるのではないかと思う。そういう意味で、伊予市が医療の町であるというのは有り難いことで、伊予市の良さをうまく引き出していけるような政策が必要だ。

(委員)

私は、空港アクセス道路の件で言ったのだが、湊町を防災上から言っても、消防車も入れない、津波がもし来ても防ぎようがない。湊町は砂地です。トータルの問題として、一番いい方法として、伊予市の財政では不可能なので、道路を期待しただけであって道路が欲しい訳ではない。今の湊町をきれいにしようと思えば、もう方法が無い。湊町を今のままにしていると、間違いなく色々な問題が起こる。境界線がしっかりしていないし、砂地であるため、何か掘ると家が傾いたとか。湊町を整備するというのは、伊予市の財政では不可能な問題です。湊町を守っていく、全部きれいに直すというのは、伊予市単独では不可能だという意味で言った。それともう1つ、自転車の話が出たので。自転車のマナーを、市のほうでもきちんと教育委員会に言っていただきたい。

(委員)

市長も分かっていると思うが、トップセールスしか無い。全て、人なのです。市長にとにかくトップセールスをやると強く言っておいてください。

(委員)

灘町、湊町は今がきれいなのです。世界中の世界遺産になっているような町や、保存されている町の中心部は、細い路地があって、人々の生活と商店が相まって生活の匂いがする場というのが美しい。外国人が来て一番感激するのはああいう所。大変な観光資源です。しかし、身近にあるから、何か汚いようにしか見えない。その辺の間違いというのが、まず一番。そして、消防車が入らないから道を全部4m以上にする。4m以上の道路に接しないと建物が建てられないという馬鹿げた法律が建築基準法にあるが、こんな事をやっているのは世界で日本だけ。これは、例えば原付と消防車と何台かで連れて行けば消火活動

はできる。防災はいくらでもできる。なぜ小さな消防車を開発しないのか。このほうが日本中の狭い道路を広げるより、よほど金がかからない。なぜ階段上れる車椅子を開発しないのか。バリアフリーを日本全土でやるよりもお金はかからない。だけれども、なぜか分からないけれども、そうになっている。今の灘町、湊町は、あるいは、20年前の灘町、湊町は、もう伊予市の重要な資源であり、資産、財産なのだという目で是非とも見ていただきたい。

(委員)

私が思うのは、近いうちに南海大地震が来ようかと言っているのだから、やれる範囲の事はやるべきだということ。資源だと言って、人が来てくれるのならいいが、そうじゃない。今まさに南海大地震が来るといふ。それより先に、努力をして、救えるところは救えるようにするというのが行政としての考え方ではないかと思う。今、私たちは行政側で考えないといけない訳ですから。

(委員)

それは、今、東北で議論されていることと同じ。町を破壊して、道を大きくして、家を立ち退かすのではなく、減災を外の部分です。南海トラフの大地震に物理的な防災など有り得ない。減災と避難、どこに避難するか。

(委員)

あの密集地だったら絶対に火災が起こる。住んでみてください、分かりますから。逃げられないです。どこかが火事で燃えていたら、狭い道は通れない。現実問題として、火災が起こると考えないといけない。

(委員)

知恵を出し、きめ細かく見れば、逃げ道はここだということを作れます。破壊するようなことをしなくても。

(委員)

協働、住民参画に関して一言。市民が市民等議会というのを作っている自治体がある。抽選で例えば1000人選ぶ。出て来ていただけるのは10%か15%くらいと言われている。若干の謝金を出すような市民等議会を作り、分野別に議論をしていくという市民参画のあり方も検討していくべきだと思う。市長が市民の声を聞くのはいいが、この1年に関して言えば、あれしてくれ、これしてくれの大合唱で、傍聴に値しないような話が多かった。市民が自らの責任において、提案して一緒にやっていくというまちづくりをしないと、これからの自治体はもたない。東北の復興が遅れている原因は所有権です。伊予市が所有権特区でも作らない限り無理。仮に土地を収用しようとしても、頑固な反対者が出て進まない。下三谷の道路の時に伊予市も苦勞した。ただ1人の反対で何年もかかった。そういう意味では、今の所有権のあり方では無理。申し訳ないけれど、憲法29条の縛りがある限りは焼けてから考えるしかない。

(委員)

参考ですが、おそらく南海地震に遭遇したのは私くらいだと思う。後で湊町辺りを歩いてみたが水害は全然無かった。私の経験では、台風で五色浜や湊町が浸かったことはある。近頃は津波津波と言っているが、瀬戸内は大丈夫なのではないかと思うが西条の話も出た。南海地震のときは津波が来なかったもので、どうなのかと思う。それから、湊町埋立地では、初め公園にすると、また伊予市は困ったこと言い出したと思った。海岸を公園にすると危ない。五色浜に行っても中学生がタバコをのむ、夜はアベックが海岸へ来て自動車が止まっても見えない。海岸の公園は監視が無いから、子どもには非常に恐ろしい。五色浜公園で懲りているはずだと思っていた。それより、なぜ工業団地をしないのか。そうすれば湊町が活性化すると言った。後で工業団地になったけれど。実際に生活している人の事を考えていない。ただ、南海大地震で変わったのは地盤沈下です。だから、新川は堤防を作らなければいけなくなった。湊町辺りも今は高くなっているけれど、元々は海岸に船が着いていた。地盤沈下したために、あのよう高く上げないといけなくなった。地盤沈下で築港もかさ上げしたが、あれは南海地震から後、じわじわとなって来た。それから、湾岸道路も、昔、あの道路がいいと言った。空港ができたときに、市長と県会議員に、伊予市が南予の玄関口だと言っておきながら、伊予市から空港に行く道が新聞に出てないと言った。今は、松山から道路をどんどん作っていますから、南予から来た人は、おそらく松山を通る。伊予市は玄関口にはならないと思う。それから、宇和島は病院でまだ成り立っている。高知のほうから来ている。宇和島市は病院である程度生活ができている。

(委員)

非常に申し訳ないが、南海地震当時、湊町に住んでおまして、昭和21年12月、うちの家には90cmの津波が来た。浜から真直ぐうちの家へ来た。壁の90cmのところずっと筋が入っていた。もう1つ前に、17年にも一度、どうも津波が起きたという話です。その後、地盤沈下が起きたであろう、概ね4、50cmは下がったと言われております。だからゆめゆめ、津波が来なかったというのは、是非入れ替えて欲しい。

(会長)

以上で(1)については終わりたい。

(2) 当面の重要施策の推進に係る取組みについて

事務局から説明。

(会長)

重要施策の推進に係る取組みについての提言、意見をいただきたい。

(委員)

湊町の臨海埋立地への企業誘致ということで、私の知り合いが、買いたいと伊予市に出した。県に行くと、伊予市と協議して来てくれということで行ったが、最終的に言われたのが工場ではないということ。組み立てるのだから捉え方で工場です。材料を仕入れて来て組み立てる。増改築の会社だが、大きくなって、何千坪かの工場を、最初見に行った時には、倉庫という捉え方をされ、合わないということだった。本当に誘致する気があるのか。考え方捉え方で、私たちが考えたら、組み立てたらもう工場です。市役所の担当の方は、違う、倉庫だと言う。結局、答えが未だにもらえてないと言うので、おかしい話だと。本当に動く気があるのなら、早めに動かなければなかなか進まない。旭食品も飛びました。伊予市の対応は、本当にこの埋立地に企業誘致をするつもりがあるのかと疑いたくなる。一度確かめてもらえませんか。本当に企業誘致する気あるのか無いのか。その話を聞いて、どう見てもあるように見えない。

(委員)

全部買うという話ですか、一部ですか。

(委員)

全部は無理です。多分全部買うところなんてない。旭食品でも一部です。結局、東温市に取られた。市長にも言ったが、おかしいと。企業誘致をするにしても、今、商店街入れていっているのも、私たちの知り合いが色んな事をしている。プロジェクトチームでも何でもないただの一市民です。良かろうと思って動いたらなぜか止まってしまう。駄目なら駄目で、理に適っていればいいが、理に適ってない。だから私の知り合いも納得してくれない。なぜいけないのか。工場、自分のところでしているところを、市の職員も一緒に現地も見ていたが、結局、未だに返事が来ない。意見が出ているように施策をしていくのはいいが、現実問題、本当にどういうつもりでやっているのか、本当に企業誘致するつもりが有るのかを調べてもらって、返事を次の機会にでももらいたい。県立中山高等学校の跡地利用にしても市街化にしても、アイデアを出しても通用しないのなら、動いても意味が無い。その話、少しでも聞いてないか。

(事務局)

細かい話は聞いてない。企業誘致を第1に考えるという方針であるということとは聞いている。

(委員)

方針は分かる。前向きに動く気が有るか無いかを聞いてくださいと言った。

(委員)

埋立地を全部活用する場合と、手を挙げた順番に一部ずつ売っていくやり方と両方ある。一部ずつ売っていった場合に、結果として、あの土地がトータル

で有効活用されないケースも有り得る。あれだけのスペースをこの中予地区の中で確保できる場所は他にないとなれば、面白い企画が呼び込める可能性がある。笑い話として聞いてほしいが、愛媛FCにどうかと言うと、狙い目だという話も聞いたことある。これを誘致するとなると、伊予市は負担が重くなって大変だろうから積極的には言いませんが、例えば、そういう大きな話を持ち込む最適スペースがここにある。トータルで考えないといけない。

(委員)

あそこは塩害がある。いつも浸かる。調べたら大手の確かなところは来ません。堰堤を変えらるとなると、何億、何十億の金がかかるか。それを考えたら、来ていただける企業があるのなら、今やるべきですよ。一度に来てくれるような大きな所は必ず調べます。荒れたら必ず海に浸かるのですから。その中で誘致をしていかなければいけない。県との関係からしても、早く事は進めるべき。調整区域の問題も、全部つながってくる。一番の問題は、実は伊予市が埋め立ててくれと頼んでおいて、最後になつたらいらぬと言った。値段交渉もまともにせずに。高いから買いません、終わり、です。県は怒っている。買ってこないといけないという時期になって高いと言って断った。安い高いは、県と交渉しないといけない。それもせずに高いから買いませんと。ウェルピアの問題もそうです。土地がいっぱい余っているのに広銀も朝日生命ビルも買った。買う必要の無い土地がいっぱい有る。少しでも売らないといけない。そんなきれい事言っている時ではない。全部税金です。我々の借金。金利を払っている。やはり1つずつ事を進めて行くべき。この問題はもう県が払うことになっているが。売れ残る所も出てくるかもしれないが、少しずつ皆で早く企業誘致を。問題もあるので、売れるのなら早く売るべきだと思う。そのためには市が皆応援してくれないといけない。企業は時間と勝負している。できなければ他所へ行かないといけない。相談にのって、答えを出してあげないと皆逃げて行く。結局いつまで経っても売れない。企業は時間とお金の勝負をしている。だから、市役所の方が本当に企業誘致をしたいと思っているのなら、答えを早く進めていかなければいけない。伊予市は遅いと言われている。ここだけの問題ではない。建築確認の問題でも何でもそうです。答えを出すのが遅い。もう少し迅速にしていけないといけない。宿題です。

(委員)

埋立地ですが、区長会で郡中、特に湊町、灘町の区長から、企業誘致やってくれと言われる。荒れた土地にしておくのは良くないといつも言われている。過去の事をどうこう言う訳ではないが、緑地や公園、住宅整備をやっている間にしおさい公園やったから止めたというようなやり方は良くない。がんセンターは他所に取られた。旭食品もそうです。どこが金額の最終的なコントロール

を持っているかと言うと、やはり県だと思う。営業活動をやるのが伊予市であって、最終的なお金の良し悪しは県が決めるのだろうと思っている。売買が今までやってもうまくいかない。何かおかしいと思う。このままだったら、ずっと草が生えたままで、何も来ないと。今までの方法では駄目だと思う。市の考え方もきちんとしなないといけないと思いますし、私は県を説得するなどという問題ではないと思う。初めは県がいじわるをしているのかとも思ったが、でもそんな問題ではないと私は思っている。もう少し、県と市が話し合っていくべき。ここに対策委員会というのがあるが、どういうメンバーか、どういう活動をしているのか、もし分かっている範囲があれば聞いてみたい。

(委員)

岡本市長の時に、埋立地を愛媛県と残土兼任で作ったと聞いている。その時に伊予市が2億4000万ほど出した。議会で答弁いただいて記憶に残っている。その時の契約が完全にできていないというような言い方をされた。契約書も無い、最初覚書も無いと言われた。その当時、杜撰な契約をしたという経緯です。金額も市のほうは5万か6万と思っていたが、県は倍の値段。これが原因です。そもそも最初のそういう契約は、私たちから見ればお役所仕事の典型。伊予市の一番悪いところが見えて、このように20年経っても未だ何もできないのが現実ではないかと感じている。10年ほど議員をさせてもらったから、色々な質問もしたが、最終的にはそのような答えしかいただけなかった。中山高校にしても、どのようにするかと言っても、民地も有れば県有地もある。県が全部くれるのか、その辺の話は全然出ていないのか。

(事務局)

可能性はある。

(委員)

民地はお返しするつもりか。

(事務局)

その部分については、まだ全く白紙です。

(委員)

がんセンターの話だけ。岡野辰哉のいた時だったので、言っておかないといけない。がんセンターは反対した。中村佑市長が最初になった時にがんセンターを誘致すると言っていた。その時私たちは反対した。なぜかと言うと、松山の文化庁から国立がんセンター跡地を貰うだけで、20億近くかけて公園整備事業をしないといけない。それであの土地を県から買わないといけない。そしてがんセンターにあげるだけ。伊予市は大きな借金をしないといけない。土地代と公園整備事業。伊予市の公園が堀の内にあるということになる。もう、あげるようなもの。それだったらしないほうがいいと言った。がんセンターが

できても通り道になるだけ。病気のお見舞いの方は、伊予市で買って遊んで帰ったりしない。最初、土木と建築が少し喜ぶくらい。がんセンターは難病を扱わないといけない。その周りは住宅街じゃなくなる。大体寂れていく。だから私は反対した。中村時広市長と加戸知事との間で、伊予市なんかに来る訳がない、中村市長で。市長にはっきり言った。伊予市としてもやるという話はやめてくれと。そんな中で、今の誤解だけ、がんセンターは来ても、伊予市にとっては大借金になっている。そしてメリットは何ら無い。松山市でも端のほうに持って行った、東温の境まで。そういう所は、町は発展しない。一番分かるのが見奈良。あそこは商店街だった。ところが療養所ができた寂れてしまった。県は見奈良へ持って行ことしたが地元がいやだと言ったので、松山市になった。だから皆さん、岡野が県と仲が悪いから、がんセンターが来なかったのではない。それだけを分かっていたきたい。

(委員)

対策委員会と県とのメンバーは、今、事務局では分からない。もし、分かるのなら、教えてください。

(委員)

今、会長が金岡英記さん、そして3区長が委員と聞いている。

(委員)

金岡さんは、前の区長さんですね。

(委員)

あと3人は、その当時に区長だった人が対策委員会のメンバーと聞いている。

(委員)

言い方は悪いが、区長会なんかを持って来てできる訳がない。何の権限も無い。こうした対策委員会として、中に入って、県や市に地元の実情を訴えていかないといけない。外野もがんばらないといけないと思う。

(委員)

その当時に、会を持ってやってください。一般質問は、私やりますと言わせてもらった。

(委員)

中山高校のことにに関して、分からないのは、耐震性が無い場合の利用方法。利用できるのか、できないのか。あるいは、民間ならできるのか。その判断が分からないと話が進まない。その前に1つ。中山高校は廃校になり残念だが、中山の方が中山高校に子どもを行かせなかったことが廃校になった原因の1つだと思う。伊予農業高校がある。20年後、生徒数の減少によって、伊予高校と伊予農業高校をどうするのかを問われる可能性がある。その時に伊予農業高校こそ残さなければいけない高校だと言えるように、伊予市及び伊予市民が

どれだけあの学校を盛り立てて行けるかが問われると思う。あじの郷の関係で最近何度も伊予農業高校に行くが、大変良い学校です。伊予市民が盛り立てて行かなければならない。この地域を担っていける子どもたちの学び舎という方向で、伊予農業高校は、これから発展させて行きたい。県立だが、伊予市が伊予農業高校をどう盛り立てて行くか考えていっていただきたい。

(事務局)

中山高校の耐震基準以下のものは、もしこの建物を使うとなれば耐震工事が必要になる。ただ、そこまでしてやる必要があるのかが大きな問題になる。

(委員)

耐震性は、民間が買った場合は関係無い。その建物は民間の建物になる。民間に貸す場合に、耐震性がどう影響するのかが心配。

(委員)

民間に貸した場合、学校から違う目的に用途を変えて使用する場合に、用途変更という手続が要る。その時に耐震性があるかどうかの診断をしなくてはならないので、59年の6月以前に建った分は耐震基準ができてない建物だったと思うので、おそらくそこで引っ掛かる気がする。

(委員)

耐震工事の金額は、概算で2億4000万くらい。

(委員)

そうなると、改修してまで利用する値打ちはほとんど無い。民間にただで貸して、ベンチャーなど何か新たな事をやろうとする人が活用できるのならば、活用方法があると思うが、用途変更となると難しい。特区という事も含めて考える余地があると思うが、ただで貸すくらいしか方法は無いと思う。

(委員)

地元の人たちはどう活用したいのか。どういう意見が出ているのか。

(事務局)

地元の区長会からの意見は、福祉増進施設や教育文化推進施設の補助施設として校舎等利用できないかということ。グラウンドは、イベントの会場や駐車場として利用したい。簡単に言えばそういう意見が出ている。

(委員)

中山は確か工業団地も空いていた。ソーラーをやると言っていたが、未だに進んでいない。私は銀行から土地を紹介していただいて、伊予市長からも言ってくれないかということで誘致に行ったら、無茶な値段を言われた。坪20何万と。即、断られた。悪いが中山の企業団地は坪5万です。それでも売れるかどうか。ソーラーは進んでいるのか。

(会長)

進んでいる。もうできている。

(委員)

それなら、まだ借地代が入るので構わない。中山高校の跡地のことを皆さんは言っているが、伊予市の土地がだんだん増えてきている。それは全部、固定資産税の入らない土地。それならば、更地にして売るとか何か考えなければいけない。あるのなら提案のようにただで貸しても構わない。今言っていたように、耐震化するのは絶対無理。それならば、スリムにしていかなければならない。間違いなくこれから順々に借金が増える。私は最初の策定委員の時に、建物を建てるのなら、借金が幾らあって収入が幾らあって、だからこの建物を大きくするとか小さくするのではないかと言ったら、今まで前例が無い、初めてだと今の総務部長に言われた。普通は借金が幾らあって、収入が幾らある、支払いはこれだけだから建物の予算はこれくらいでと言って、会社ならそうです。ところが市民会館は、お金が幾らかかっても提案は構わないという形でこうなった。もう少し考えて行かなければいけない。財政と土地の問題も、皆でもう一度考えませんか。再利用もいいが、余っている土地をどのようにするかということをやっている行かなければならない。朝日生命ビルも買って、私は納得できない。宮内邸を守るのなら、なぜ新宅を他所に建ててあげられなかったのか。矛盾した事ばかりです。そして、議会にかからないようにするために住宅供給公社で買った。あんな抜け道みたいな手ばかり使って。市がずっとやって来ている。朝日生命ビルが伊予市の財産になっている。今、何をしているのか。広銀は社会福祉協議会が使っているのか。

(委員)

広銀は、今は使っていない。

(委員)

空いているのですか。その土地は安くないと思う。やはり、この策定の中で、きちんとしていくべきではないか。こういうものはこう、これはこうしよう、借金は減らしていこうとか、売れるものならば売っておこうとか。利用もいいが、無理だと思ったら即返還しないとイケない。これが策定だと思う。

(会長)

貴重な意見をいただいたが、(2)について他に無いか。

(委員)

臨海埋立地あたりは、例えば競艇場とかは考えられないのか。

(委員)

一度あった。競艇場の説明も行ったが、大反対で潰れた。場外競馬場も競艇場も話があった。双海にも競艇場をという話もあった。これは伊予市のためになると思って、私たちも一緒に応援させてもらった。なぜかと言うと、毎年、

公民館建てるなどの補助金をくれる訳です。これは非常に今の伊予市にはいい
と思って勧めたことがあるが、とんだ。

(委員)

いつ頃ですか。

(委員)

三秋が15年前。新川がその後すぐ。

(委員)

結局、朝倉に行った。

(委員)

朝倉へ、西予市の宇和町の競輪場外場。

(委員)

最初は伊予市に話をいただいていた。

(委員)

その後の状況は調べたことはあるのだろうか。朝倉や宇和町に場外場ができて
いる。その後の経済情勢などはどうですか。

(委員)

やはりいいです。地元で金を落としてくれるのですから。皆さんが心配した
のは、治安が悪くなる、うるさくなること。見てもらったら分かるが一切無い。
箱の中に入れてしまいますから。駐車場を作って、シャトルバスで送るという
形できちんとする。地元で迷惑をかけないようにきちんと考えたが、結局、悪
いイメージが強い。女の人とか、子どもの教育に悪いと、どうしてもそっちの
ほうになってしまう。ただ、財政としては助かるからと思った。原発もそうで
す。結局、補助漬けになってしまう。良いか悪いか両輪です。

(委員)

補足説明。その時、議員させてもらっていて、玉川町に行った。反対があっ
たのがまず地元、そしてPTA。あの当時で億の金が入ってくるということで市
は非常に喜んだ。我々も嬉しかったが、地元の方と保護者の皆さんが、ギャン
ブルの売り場が地元でできるのは反対だと言って、お断りされたのが現実です。
我々もそう言われれば仕方ないと思った。しかし現実的には、玉川に行っても、
完全防御で外へは全然聞こえない。

(委員)

今の運動公園がまだできてない頃に私も提案した。あそこに広場みたいなも
のがあったから駐車場として使えるし、五色浜との間に作ったらいいと。博打
は場が儲けるのだから、欲しいのならそれをしていいと、県を通じて言った。
すると伊予市から県へ連絡があって、今のところはニーズが無いので、そうい
う予定は無いという返事だった。

(委員)

中山高校の件。特林の校舎がある。地元の要望の中に伊予農高の特林の分校としてどうかという話を聞いた。その後それがどうなったのかが1つ。どうして特林を言うのかというと、特林を作った時に私たちにも相談があって、シイタケは原木の利用料から計算していくと、これは長持ちしませんと言ったが、当時の町の施策として、実は無理して作った。いわゆるトップセールス。当時まだタバコ、シイタケ、クリ、結構所得があった。将来を見ても、後継者が残るであろうという見方の中で作った。こんなになってしまったけれど。特林課でも伊予農高とのセットの中で将来を考えると、複合的に考えられないのかという点。もう1つは、重要施策の中に伊予市議会議員は、現状で、どういうふうに絡まれているのか。特に埋立地の問題で、どういう働きをされているのか。議長を筆頭に市長の手足になって、両輪ですから、色んな議論もしなければいけない。議会として議員がどういう働きをされているのか、どういう仕事をされているのか聞きたい。大事な事です。市長を助けるという意味では、議会がもっとしっかりしなければいけない。埋立ての問題でも、旭食品も大方、伊予市来ていた。それがひっくり返った。地元住民の皆さん方に説明する意味でも、やはり地域住民とのパイプは議員です。議員がどういう働きをされておられるのか。特にこの重要施策について、議会人として伊予市をどういうふうに進めて行こうとしているのか、取りまとめができるようであれば聞きたい。提案です。そういう意見があったということだけ伝えておいてください。議員がしっかり働いてもらわないと、伊予市が良くなりませんから。

(委員)

未来につなごう、みんなの廃校プロジェクトという国庫補助の資料を載せている。耐震性の有る部分もあるから、その部分について、この補助制度なりを活用して何かできないかということを考えたいという趣旨か。

(事務局)

それも1つの選択肢ということ。

(委員)

市街化区域の見直しは、市街化区域への見直しと受け取って宜しいか。

(事務局)

はい。

(委員)

まず、市街化区域の見直しのこと。今、新川地区等は、市街化地域でありながら家が建たないのは、道路、下水。道路ができないと下水はできない。社会資本が完備されていないことが大きな障害になっていると思う。津波の問題は別として、そういう開発をやらすには難しい。市街化区域への見直しについて。

ウェルピアの問題は、他の企業を参入させるためにも、どうしても踏ん張らないといけない。これは通行手形だと思う。マスタープランの中にも、ウェルピアは文化の拠点として位置付けて、充実を図っていくという方針を書いている。それと、伊予市はやはり人口問題。子育てに対して強い姿勢を持っていくということと、もう1つは、便利な所に、田んぼが市街化になるように設定して行かなければならないということ。大変難しい問題だと思う。松前を飛び越えて、果たして県が伊予市に判を押すかどうか。そういう事もやっていかないと人口は減っていくばかり。定住確保する1つには、市街化地域を作っていく。できるだけ安価な土地を提供していくことも大きな柱ではないかと思う。

(会長)

以上で、(2)については閉じる。

(3) その他について

(会長)

その他についてお願いします。

(事務局)

笹木委員から提案が出ている。

(委員)

今日、事務局で配った資料が3つある。平成23年8月1日に地方自治法が改正されて、それまでは総合計画の策定が義務付けされていたが、全国各地の市町村の総合計画が、総花的で、足し算的に作られており、これなら作る必要無いと義務付けが廃止されたが、多くの自治体が総合計画を重要視して作っている。作るからには、有機的な繋がりのある文章として、機能する総合計画を作らなければいけないという書類を抜き出した。前回、このメンバーで総合計画を作っていくには、力不足があるのではないかということを感じて、専門家を招き、まずは話を聞きましょうという提案をして、次回には大体どんな人が探してきますと、勝手に約束したので、それを示したい。

(山崎 亮 氏)

(一条義治 氏)

(鵜 (いかるが) 心治 氏)

(村上 敦 氏)

予算のことは全然頭になく言っている。何人呼ぶか、誰を呼ぶかは別にして、とりあえず専門家の方をお呼びして、話を聞きたいということ、この間、特に反対の意見は出なかったと思うが、よろしければ賛成か反対か議決を採っていただきたいが、いかがでしょうか。

(会長)

質問、意見はありませんか。

(事務局)

せっかく提案していただいたが、まず予算が必要な話。この審議会の運営に関して、講師料というのは基本的には予算化しておりません。

(委員)

財布は色んな所にあると思う。この総合計画の策定ということではなく、全体のまちづくりにも関わってくる問題であり、町の運営のソフト、例えば図書館のソフト等も関わってくると思う。全体として、何か工夫ができないのかということがある。

(委員)

先生の話聞くのがベストだが、この審議会の、2年間の中のどこに位置付けてやっていく話になるのかよく分からない。最初にイントロの話としてやって、そこをスタート地点として再度やり直すという話になるのか。後20回あるとして、その中でどう位置付けるのか。ワークショップが必要だとなると、こことは別にワークショップを作る話になるのか。そうなる到着地できなくなる可能性がある。総合計画を一応着地させるという前提で動いているとなると、着地点が見えなくなる恐れがありはしないか。この審議会で結論を出すこととワークショップの関係が、明確になってないと、まとまらなかったということも起こり得る。代案としては、予算があったとしても、日にちの問題とか折り合いを付けるとなると、この先生方を呼べないと思う。別のセミナーを作って、後で討論会をするならできると思う。

(委員)

今のフレームの中で総合計画を作っていくと、おそらく前と同じものにしかならないと思う。それが一番懸念している状態。今の時代は、市民が総合計画を作る、市民あるいは市民の代表が率先して文章から作っていく。そういう本格的な市民参加が必要。今の枠組みでは、事務局が案を作って、それに対して部分的に意見を言って、役所の各部署から意見を聞いて、それを総合的に閉ざされたところで文案が出て、またこちらでチェックする。今の2年間のストーリーだと、そういうふうにならざるを得ないと思うが、それでは市民が総合計画を作るということとは違って、諮問されたものに対して意見を言うだけで終わってしまう。そうではないことを各地域でやっている例が既に出ているので、その辺から刺激を受けて、今後この審議会をどうしていくのか、あるいは審議会そのものが、もしかしたら空洞化して、市民参加して、その中に審議委員も入って枠組みを超えた形で進めていく。一度ここで議論しなければいけないと思う。私が話しただけ、本読んだだけではリアリティが無いと思う。早い時期にこの人たちの話を聞くと、やる気が出ると思

う。自分たちでも作れるという気持ちを起こしていただければ、もっとこの会が楽しくなるし、活気が出ると思う。着地点は必ずできる。それから、誰がファシリテーターになるのか、伊予市の中でやっていくのか、外部の人に来てもらうのか、それは分かりません。今後の話し合いで皆で決めて行ったらいいと思う。総合計画という固定概念をひっくり返したいと思う。

(委員)

第2回審議会の時に言ったが、スケジュールリングをきちんとしておかないと、今後の審議会が無駄になってしまうと思う。提案のあった先生に講演をしていただくという事も1つあるし、どういった行程で進めていくのか分からないといけない。何か月先には建設分野の話があると分かっていたら、事前に準備できる。半年先なり、1年先なりの行程を組んで、その中で議論したいと思う。委員に、こういうスケジュールでやれば効率的だということを出していただいて、そこで揉んでいくのがいいと思う。是非スケジュールリングをお願いしたい。

(事務局)

スケジュールリングは考えてみたいと思う。その中で、住民アンケートは是非やってみたいと思っている。先程の委員の意見には反するかもしれませんが、アンケートを上手に取れば、市民の意見はかなり酌めるのではないかなというのがまず1つ。それと、ここのメンバーでお話をいただくというのは、色々な分野、地域の方が入っており、それがそれぞれの立場からの民意の集まりだと捉えていた。ただ、それが密室だと言われると、反論のしようが無いが。そういう認識をいただけるのであれば、敢えてワークショップをする意味が見出せないなというのが1つある。

(委員)

ワークショップについて一言。私、松山市の石手川公園の全体計画のワークショップに携わっており、国土交通省の公園計画にもワークショップをしたことがある。公園とか防災とか、自分の身近な部分に関するワークショップなら出て来てもらい易いが、総合計画となると、話が大きい、しかも長い、こういう問題については、ワークショップに出てほしいと言っても、なかなか出てくれない。そこがワークショップする上で一番大きなネックではないかと思う。つまり、動員をかけない限り人が集まらない。無理やり集まって来た人に意見を聞いてもいい意見が出ないという事があるので、ワークショップは、ただのイベントに終わってしまう可能性があるというのが大きな課題だと思う。テクニックが要ると思う。しかも大きな予算が要る。松山市の石手川公園全体計画も数百万という金額。国土交通省の公園計画も結構な金額。その予算を確保した上でワークショップをやったけれども、結果があまりいいものが得られなかったという可能性が大きいので、慎重にしないといけない。

(委員)

今の意見に非常に共感する。ワークショップをやる場合はこの審議会を閉じて、市民の意見を聞くという形でワークショップをやらざるを得ない。以前、市庁舎のワークショップに出たと思うが、あれだけテーマが具体的であっても人が集まらなくて先細りになった。ファシリテーターに来ていただいたが、コーディネートやり辛かったと思う。消化不良を起こしたような気がする。もしやるのであれば選挙人名簿から500人くらい当てるようなやり方でないと、成り手が居なくて、動員するくらいの事にしかならない。結局、言った事がそれほど集約できずに終わってしまう気がする。むしろ、こういう考え方が有るということを図面化でもして、皆さんにお配りして、そういう考え方の中でやりませんかという形にしたほうが良いと思うが、いかがか。

(委員)

市役所の時のワークショップが、あれがワークショップだと思われてしまうと辛いものがある。その概念をひっくり返してもらいたい。あれの無理があったのは、設計事務所がまずファシリテーターを連れて来て、色んな制約の中で行われたというのがあった。三鷹市でも海士町でも20回近くワークショップする。何度も案を練って消化していく。そのためのノウハウは、この彼等は色々持っている。今日配った資料は、非常に具体的にテーマを挙げている。ワークショップは、ウエルピアならウエルピアとか、中心街の活性化とか商店街とか、あるいは子どもというようにテーマを絞って人を集めるという形になると思う。例えば、前回の審議会で得られた収穫を書いているが、小公園というキーワードが出た。小さな事を言っているようだが、小公園の中にはコミュニティを育むもの、子どもの遊び場、防災もあるし、景観ということもあるし、複合的な問題が重なっている。どんどん膨らませると、色んなまちづくりに発展できるなと感じた。それからコミュニティ交通。これからのコミュニティ交通をどうするのかということも、着地点が見えていないと感じた。これも面白いアイデアが出るだろう。電子図書館という話が出たが、便利さはあってもコミュニティを育てていく、膨らませていくということとは相反する面がある。同時に、過疎地の村で利用できれば面白いという事。ワークショップをすると、こういう事が出て来て、ファシリテーターがうまいと、次にこれをどう深めようか、どう広げようかと持っていく。でも今のやり方だと全部立ち消えです。一般の人が意見を言えるテーマは山ほどある。しっかりしたファシリテーターが居て、そういう人たちの意見を広く聞くというのは大事なことだと思う。

(委員)

素晴らしいと思うが、時間がかかる気がする。例えば、この審議会をワークショップ化するという形で、テーマも幾つか絞り込んで、総合計画の全部

は無理でも一点突破、数点突破をする形で、この審議会を活用するほうがより現実的ではないかと思う。例えば子育て支援にある程度特化して何回かやる。事務局が考える計画からするとその分が膨れ上がるが、後の部分はある程度端折りながらも、ある部分はかなり練ったという形をまずは具現化して、それを可能な限り全体に広げて行くというやり方のほうが、より現実性があると思う。市民と言っても、結局、伊予市の場合は役割市民が多い。三鷹市とか、普通考えても知的レベル、人口規模、ボリューム、階層を考えても相当な人が居るはずです。伊予市の場合は、なかなか難しいので、今ここに居るメンバーの中で、それを一回具現化したほうが面白いと思う。

(委員)

概ね今の意見に賛成したい。伊予市の場合、イベント、事業、懇談会をしても出席者が固定化しているということもあるし、似たような意見しか出ないということもある。今の市民にこの計画を主体的に作ってもらうのは、困難であろうと思う。先生を呼ぶことは、まちづくりシンポジウムという形で、市全体で何か取り組むことはできないか。こういう先生方に来ていただいて、市民に広く提案をしていただけるようなことができればいいと思う。

(委員)

何かしようと思ったら、市の場合、1年前に予算付けして、答えが出るのは2年後。先生が来るのはいいが、予算が要るとなったらそういう話になる。すると今期のことにならない。お金が要るということは、そういうことなんでしょ。講師に来てもらうのはいい事です。ただ問題は、お金の問題が絡むとなると、3人となったら交通費だけでもかなりになる。

(委員)

この審議会としては、スケジュールを組んで、課題をきちんと審議してもらうというベースでないと難しい。講演会は、まちづくりに市がもっとお金を出して、職員、議員、そして代表の皆さん全員で、先生の話聞いてもらうシステムができれば予算が取れる。特に職員に聞かせて欲しい。議員もそうです。議員にもっと勉強してもらわないと。

(委員)

私も賛成。ウェルピアの参考資料を見た。菊川市は静岡県の工業地帯の豊かな所です。あんな実態を見て、この貧乏な伊予市が同じ事をするのは絶対できない。実態を中から生み出していかなければいけないと思う。今の直売でも、農家の主婦がしているのであって、農協が進めたのではない。この会で、皆が汗をかって一生懸命に意見を出し合って、そしてどうしても行き詰った時には、それを頼まないといけませんが。今まで度々会に行ったが、実態を知らない他所の講師が、ああだこうだと言う。この会のメンバーは、偉い先生ばかりで、聞

いているだけで色々勉強になる。これだけのメンバーが揃っている。傍の者が幾ら言っても、地元の事は地元の者でないと分からない。

(委員)

人口が減ってしまったら、結局まちづくりは有り得ない話。人口が減らないためには、子ども、若い夫婦が入られるような環境づくりがとても大事で、そのためには子育てができること。やはり若い人口が増えていく、私たちの世代の人がどんどん増えていくことが大事だというのは直感的に分かる。それをどうして行くかということが、最初に話し合っていくことだと思った。

(会長)

事務局から提案をして、それについて意見をいただいて、順次まとめていくという意見が多かったと思う。必要に応じて外部の方の意見を聞くということも大事ではないかと思う。予算も獲得していくということ。いかがか。

(委員)

補足説明しないといけないと思う。大分誤解されているのかなという気がした。専門家を呼んで、講義をしてもらって、有り難がるということではない。この審議会の中には、自分から応募されて、普通の若い市民として参加していただいている委員もいる。こういう方を発掘する事が一番重要だと思う。普通の普段の意見を言う。言ってみれば、その行司役をしてくれる人であって、この人たちが計画を作る訳ではない。

(委員)

一番の誤解は、この人たちは地元に住む人に気付かせるのが上手な人。前回、専門家の話を聞いてみたらどうですかと提案があった時に、聞いてみたいと言った人が何人かいたので、今日出されたと思う。人選としても、若い人、何にも考えて無いような人に、自分の町にこんなところがあるという事を気付かせることが上手な人たちです。自分にできる事を考えさせる。足元を見ようというのを教えるのが上手な人です。私も女性会の世話をしており、講師を決めるのに3年かかった。3年がかりです。だから、この話が出てすぐ実現というのは多分無理だと思うが、とてもいい人選なので、できれば、まちづくりシンポジウムのようなものを前向きに検討してもらいたい。すごくいい人選だと思うのでお勧めする。

(会長)

提案を取り入れた運営にしていく必要はあると思う。着地点も見据えながら考えさせてもらいたい。大方、意見も出た。事務局には提案をしっかりといただいて、皆で審議をして、いい方向へ持って行くように努力いただきたいと思う。

(事務局)

第1回議事録について、これで良ければ公表したい。

(会長)

第1回議事録についてはよろしいか。

(委員全員)

了承

(事務局)

第2回審議会議事録を配っている。修正部分があれば連絡願う。

(委員)

外部評価という資料について。伊予市行政評価委員会、これは外部から人を採って、これだけの事を評価しているのか。

(事務局)

送った資料に行政評価結果報告書と外部評価結果がある。市がどのような事務事業を行っているかの参考としていただきたい。行政評価委員会が、職員が評価した事業の中から重要なもの、意見を聞きたいというものをピックアップして評価をしているのが外部評価ということになる。

(委員)

外部評価委員の結果表は、どこまで公表しているのか。議員にも全部渡っているか。

(事務局)

議員には渡している。

(事務局)

行政評価結果報告書について説明

3 次回の審議会日程について

(会長)

(4)の次回の審議会日程について、お願いします。

(事務局)

次回は4月11日金曜日、1時半から。中央公民館のこの場所で行いたい。

(会長)

何かございますか。

(委員)

審議会等設置状況を見たら、農業関係の委員会だけでも7つある。どこが何をしているか分からない。だからもう少し何とかならないかと思う。

(会長)

以上で本日の会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。